

授業科目名 基礎看護総論Ⅰ (看護の概念)	第一看護学科 1年次 前期 1単位(30時間)
-----------------------	-------------------------------

I. 授業のねらい・目標

<p>ねらい</p> <p>看護学の導入として、看護の定義・概念、歴史的変遷、看護専門職の役割・活動、対象者の理解、看護実践を支える法律や制度などを学ぶことで、「看護とは何か」を知り、看護の全体像を理解する。</p> <p>目 標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 人間を身体的・心理的・社会的側面から考え、人間は統一体として存在していることを理解できる。 2) 人間の尊厳について深く考えられる。 3) 専門職としての看護の歴史を知り、看護の専門性を理解できる。 4) 看護と健康の概念が理解できる。 5) 看護の機能と役割が理解できる。
--

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	看護への導入		
2	実践科学としての看護、看護実践のための基準		
3	看護の変遷		
4	現代社会における看護のあり方		
5	ナイチンゲール・ヘンダーソンの看護の概念		
6	専門職としての看護		
7	看護の対象とその理解 統合体としての人間		
8	看護の対象とその理解 環境との適応		
9～11	看護の対象とその理解 健康と看護		
12	保健・医療・福祉システムにおける看護者の役割		
13	看護における法的責任、看護実践の理論的根拠		
14	看護における倫理と価値		
15	看護過程とは 看護過程の構成要素		

III. 使用テキスト・参考文献

<p>ナーシング・グラフィカ 基礎看護学 ①看護学概論 メディカ出版</p> <p>フロレンス・ナイチンゲール著 看護覚え書き 本当の看護とそうでない看護 日本看護協会出版会</p> <p>ヴァージニア・ヘンダーソン著 看護の基本となるもの 日本看護協会出版社</p> <p>東京医科大学看護専門学校編著 よくわかる看護職の倫理綱領 照林社</p>
--

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物 等

授業科目名 基礎看護方法論 I - 1 (共通技術)	第一看護学科 1年次 前期 1単位 (30時間)
-------------------------------	--------------------------------

I. 授業のねらい・目標

<p>ねらい</p> <p>看護実践の構成要素である知識・技術・態度を学び、それらをバランスよく身につけ、エビデンスに基づいた科学的実践と患者との相互作用によって創造し、生み出される看護技術のあり方を理解する。</p> <p>目 標</p> <p>1) 看護技術の概念が理解できる。 2) 科学的根拠に基づいた援助技術の必要性とその方法を考えられる。 3) 原理・原則を踏まえ、対象者の安全・安楽を考慮した基本的な援助技術が実施できる。 4) 看護に必要な態度について深く考えられる。 5) 看護技術の習得に向けて主体的に学習に取り組む基本的な姿勢・態度を身につける。</p>
--

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	技術概念	講義	
2	観察・記録・報告①	講義	
3	観察・記録・報告②		
4	コミュニケーション①	講義・演習	
5	コミュニケーション②		
6	コミュニケーション③		
7	コミュニケーション④		
8	安全・安楽①安全を守る技術 (安全と危険)	講義	
9	安全・安楽②感染予防 (スキャンダップリケーション①)		
10	安全・安楽③感染予防 (スキャンダップリケーション②)	演習	
11	安全・安楽④感染予防 (無菌操作①)	講義	
12	安全・安楽⑤感染予防 (無菌操作②)	演習	
13	安全・安楽⑥看護技術としての安楽	講義	
14	安全・安楽⑦罨法の実際	演習	
15	看護技術習得のための手引	講義	

III. 使用テキスト・参考文献

<p>ナーシング・グラフィカ 基礎看護学 ②基礎看護技術 I メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 基礎看護学 ③基礎看護技術 II メディカ出版 任 和子他編集 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院 川島みどり監修 学生のためのヒヤリ・ハットに学ぶ看護技術 医学書院</p>
--

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物 等

V. 実習との関連

成績評価要綱第13条により、この科目を修得しなければ基礎看護学実習IIを履修することができない。
--

授業科目名 基礎看護方法論 I - 2 (環境・活動と休息を整える援助)	第一看護学科 1年次 前期 1単位 (30時間)
---	--------------------------------

I. 授業のねらい・目標

ねらい 生命活動と社会活動の両方を営む上で重要となる「環境」に視点をあて、人と環境の関係を理解し、健康的な生活環境を整えるための基礎知識と援助方法を習得する。また、人間が社会生活を営む上で行われる心身の活動により、疲労を蓄積させないよう活動と休息のバランスを考えた行動の必要性とその援助方法を理解する。 目 標 1) 対象者の日常生活がどのように営まれているか、その目的や意味について考えられる。 2) 科学的根拠に基づいた援助技術の必要性とその方法を考えられる。 3) 原理・原則を踏まえ、対象者の安全・安楽を考慮した基本的な援助技術が実施できる。 4) 看護に必要な態度について深く考えられる。 5) 看護技術の習得に向けて主体的に学習に取り組む基本的な姿勢・態度を身につける。
--

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	快適な環境	講義	
2	病室の環境、病床環境を整える技術		
3	ベッドメイキング	講義・演習	
4			
5	臥床患者のシーツ交換	講義・演習	
6			
7			
8	活動・休息の意義	講義	
9	ボディメカニクスの原理・体験	講義・演習	
10	姿勢と体位	講義・演習	
11	安楽な体位保持		
12	体位変換		
13	移乗・移送の実際 (車椅子)		
14	移乗・移送の実際 (ストレッチャー)		
15	睡眠のメカニズム	講義	

III. 使用テキスト・参考文献

ナーシング・グラフィカ 基礎看護学 ③基礎看護技術II メディカ出版 任 和子他編集 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院
--

IV. 成績評価の方法

筆記試験、技術試験、提出物 等 *筆記試験・技術試験、両方合格することで、単位修得とする。
--

V. 実習との関連

成績評価要綱第13条により、この科目を修得しなければ基礎看護学実習IIを履修することができない。
--

授業科目名 基礎看護方法論 I - 3 (身体の清潔を保つ援助)	第一看護学科 1年次 前期 1単位 (30時間)
-------------------------------------	--------------------------------

I. 授業のねらい・目標

<p>ねらい</p> <p>皮膚と粘膜の保護及び清潔保持に関する生理学的メカニズムを理解し、清潔に関するニーズをアセスメントし、対象に応じた効果的・効率的な援助方法を選択することができるよう、人々が健康な生活を送るために必要な援助を理解する。</p> <p>目 標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象者の日常生活がどのように営まれているか、その目的や意味について考えられる。 2) 科学的根拠に基づいた援助技術の必要性とその方法を考えられる。 3) 原理・原則を踏まえ、対象者の安全・安楽を考慮した基本的な援助技術が実施できる。 4) 看護に必要な態度について深く考えられる。 5) 看護技術の習得に向けて主体的に学習に取り組む基本的な姿勢・態度を身につける。
--

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	身体の清潔の意義	講義	
2	健康障害時の看護		
3	衣生活の意義 衣服の選択 病衣の交換		
4	臥床患者の寝衣交換	講義・演習	
5	臥床患者の部分清拭		
6	臥床患者の部分清拭		
7	臥床患者の部分清拭・陰部洗浄		
8	臥床患者の全身清拭		
9	臥床患者の全身清拭		
10	口腔ケア	講義・演習	
11	部分浴		
12	臥床患者の洗髪		
13	臥床患者の洗髪		
14	臥床患者の洗髪		
15	臥床患者の洗髪		

III. 使用テキスト・参考文献

ナーシング・グラフィカ 基礎看護学 ③基礎看護技術Ⅱ メディカ出版
 任 和子他編集 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院

IV. 成績評価の方法

筆記試験、技術試験、提出物 等
 *筆記試験・技術試験、両方合格することで、単位修得とする。

V. 実習との関連

成績評価要綱第13条により、この科目を修得しなければ基礎看護学実習Ⅱを履修することができない。

授業科目名 基礎看護方法論 I - 4

(食事と排泄の援助)

第一看護学科

1年次 前期

1単位 (30時間)

I. 授業のねらい・目標

ねらい

人は生命を維持するために必要な物質や栄養素を取り入れ、不必要な物質や有害物質を体外に排出しており、成長・発達し、健康を維持し、生命活動を継続するために必要な食事・栄養や排泄の意義を学び、健康障害によりそれらに制限が加わる人のニーズに対して多面的にアセスメントし、効果的な援助方法を理解する。

目標

- 1) 対象者の日常生活がどのように営まれているか、その目的や意味について考えられる。
- 2) 科学的根拠に基づいた援助技術の必要性とその方法を考えられる。
- 3) 原理・原則を踏まえ、対象の安全・安楽を考慮した基本的な援助技術が実施できる。
- 4) 看護に必要な態度について深く考えられる。
- 5) 看護技術の習得に向けて主体的に学習に取り組む基本的な姿勢・態度を身につける。

II. 授業計画

回	授業内容	講義・演習	備考
1	食事の意義	講義	
2	食事のアセスメント	講義	
3・4	食事の援助① ②	講義・演習	
5・6	経管栄養法① ②	講義・演習	
7	経静脈栄養法	講義	
8	排尿・排便の意義	講義	
9	排泄のアセスメント	講義	
10・11	排泄の援助①<浣腸・摘便>	講義・演習	
12・13	排泄の援助②<導尿、尿道留置カテーテル>	講義・演習	
14・15	排泄の援助③<床上排泄>	講義・演習	

III. 使用テキスト・参考文献

ナーシング・グラフィカ 基礎看護学 ③基礎看護技術Ⅱ メディカ出版
任 和子他編集 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院
川島みどり監修 学生のためのヒヤリ・ハットに学ぶ看護技術 医学書院

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物 等

*経鼻胃チューブの挿入、導尿または膀胱内留置カテーテルの挿入、浣腸、摘便の技術は学内演習を必須とする看護技術のため、欠課の場合、補習が必要となる。

V. 実習との関連

成績評価要綱第13条により、この科目を修得しなければ基礎看護学実習Ⅱを履修することができない。

授業科目名 基礎看護方法論 I - 5 (診療の補助技術)	第一看護学科 1年次 後期 1単位 (30時間)
----------------------------------	--------------------------------

I. 授業のねらい・目標

ねらい

検査や治療の意義や看護師の役割を理解し、対象者の安全・安楽を考慮した目的を達成するための介助方法及び検体の採取方法について理解する。

目 標

- 1) 科学的根拠に基づいた援助技術の必要性とその方法を考えられる。
- 2) 原理・原則を踏まえ、対象の安全・安楽を考慮した基本的な援助技術が実施できる。
- 3) 看護に必要な態度について深く考えられる。
- 4) 看護技術の習得に向けて主体的に学習に取り組む基本的な姿勢・態度を身につける。

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	診察と看護 各検査の援助方法	講義	
2	検査の援助の実際		
3	採血演習	演習	
4	与薬時の看護の役割	講義	
5	経口法、直腸内与薬法		
6	直腸内与薬法の実際	演習	
7	注射器具の取扱、注射の準備	講義	
8	皮内・皮下・筋肉内注射法		
9	皮下・筋肉内注射法の実際	演習	
10	静脈内注射法・点滴静脈内注射法	講義	
11	静脈内注射・点滴静脈内注射の実際	演習	
12	医療機器と安全性、心電計	講義・演習	
13	酸素吸入、SpO ₂ 、酸素ボンベ	講義・演習	
14・15	吸引法① ②	講義・演習	

III. 使用テキスト・参考文献

ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ メディカ出版
 任 和子他編集 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院
 川島みどり監修 学生のためのヒヤリ・ハットに学ぶ看護技術 医学書院

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物

授業科目名 基礎看護方法論 I - 6 (フィジカルイグザミネーション)	第一看護学科 1年次 後期 1単位 (30時間)
---	--------------------------------

I. 授業のねらい・目標

ねらい

患者の状態をアセスメントするため、五感のすべてを鋭敏に機能させ、注意深く全身状態を系統的に把握するための観察技術を習得する。

目 標

- 1) 科学的根拠に基づいた援助技術の必要性とその方法を考えられる。
- 2) 原理・原則を踏まえ、対象の安全・安楽を考慮した基本的な援助技術が実施できる。
- 3) 看護技術の習得に向けて主体的に学習に取り組む基本的な姿勢・態度を身につける。
- 4) 人体の構造・機能に関する知識をもとに、問診とフィジカルイグザミネーション（視診・触診・打診・聴診）が正しい手技で実施できる。

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	フィジカルアセスメント概論 バイタルサインとは		
2	体温 外皮系		
3・4	循環系①：脈の触知 心音		
5～7	循環系②：血圧 触診法 聴診法		
8	呼吸系：呼吸（視診 問診）		
9	呼吸系：呼吸（聴診 触診）		
10	消化系：腹部（視診 問診）		
11	消化系：腹部（聴診 触診）		
12・13	中枢神経系：意識、瞳孔 感覚器		
14	運動系：MMT・ROM、小脳機能		
15	フィジカルイグザミネーション演習		

III. 使用テキスト・参考文献

ナーシンググラフィカ 基礎看護学 ②基礎看護技術 I メディカ出版
 任 和子他編集 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院
 山内豊明著 フィジカルアセスメントガイドブック 医学書院

IV. 成績評価の方法

筆記試験、技術試験 等

*筆記試験・技術試験、両方合格することで、単位習得とする。

V. 実習との関連

成績評価要綱第13条により、この科目を履修しなければ基礎看護学実習Ⅱを履修することができない。

授業科目名 基礎看護方法論Ⅱ

(経過別・治療別・症状別看護)

第一看護学科

1年次 後期

1単位(30時間)

I. 授業のねらい・目標

ねらい

各病期(急性期・回復期・慢性期・終末期)にある対象の心身の状態や病状により発現する症状のメカニズムを理解し、対象に応じた援助方法を理解する。また、主な治療に対する対象の心身の変化と援助方法について理解する。

目標

- 1) 各経過の特徴を理解できる。
- 2) 各経過にある対象者の心理を理解できる。
- 3) 各経過における援助方法を理解できる。
- 4) 手術療法、化学療法、放射線療法、輸液療法、輸血療法における看護の役割と機能を理解できる。
- 5) 対象者の症状に応じた援助を理解できる。
- 6) 指導技術と活用方法について理解できる。

II. 授業計画

回	授業内容	講義・演習	備考
1	各病期(急性期・回復期・慢性期・終末期)にある患者の特徴と状況に応じた援助 終末期ケア: グリーフケア、エンゼルケア	講義	
2	治療別看護とは 手術療法を受ける患者の看護①		
3~7	手術療法を受ける患者の看護②~⑥		
8	輸血療法を受ける患者の看護		
9・10	化学療法を受ける患者の看護①・②		
11	放射線療法を受ける患者の看護		
12	痛みのある患者の看護① 痛みに影響する因子・痛みの分類とメカニズム		
13	痛みのある患者の看護② 痛みのアセスメント・薬物療法・痛みに対するケア		
14	発熱のある患者の看護 発熱のメカニズム・原因・熱型・随伴症状・成り行き・看護		
15	指導技術		

III. 使用テキスト・参考文献

任 和子他編集 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院
 ナーシング・グラフィカ 基礎看護学 ②基礎看護技術Ⅰ メディカ出版
 ナーシング・グラフィカ 基礎看護学 ③基礎看護技術Ⅱ メディカ出版
 系統看護学講座 基礎看護学[4] 臨床看護総論 医学書院
 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院
 高木永子監修 看護過程に沿った対症看護 学研

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物 等

授業科目名 基礎看護方法論Ⅲ (看護過程の展開)	第一看護学科 1年次 後期 1単位(30時間)
-----------------------------	-------------------------------

I. 授業のねらい・目標

ねらい 科学的思考、問題解決的思考をもとに、看護の過程における思考の方法を学び、看護専門職者として患者のニーズを満たし、質を保証するケアの提供の技術を習得する。
目標 1) 看護過程が問題解決法であり、看護の目的を遂行する為の手段であることを理解できる。 2) 看護過程を進めるにあたっての前提は、人間関係を基本に置くこと、人間を総合的に(全人的)に捉えることであることの意義を理解できる。 3) 看護過程の構成要素をアセスメント、計画、実施、評価、修正の5段階であることを理解し、構成要素をそれぞれについて理解できる。 4) POSについて理解し、記録方法の一つであるSOAPの概念と書き方を理解できる。 5) 対象者の健康障害をアセスメントする為の方法を理解できる。 6) 対象者の健康を維持・回復・増進する為の看護援助の計画が立案できる。

II. 授業計画

回	授業内容	講義・演習	備考
1	構成要素1:情報の分類、整理	講義・演習	
2・3	構成要素1:アセスメント①②情報の分析、解釈		
4	構成要素1:アセスメント③情報の分析、解釈、関連図		
5	事例演習説明、VTR視聴		
6~10	看護過程演習①~⑤		
11	構成要素2:問題の明確化、看護診断	講義	
12	看護過程演習⑥	演習	
13	構成要素3:看護計画の立案、看護目標、期待する結果、 具体策	講義	
14	看護過程演習⑦	演習	
15	構成要素4:実施、構成要素5:評価	講義	

III. 使用テキスト・参考文献

ナーシング・グラフィカ 基礎看護学 ②基礎看護技術Ⅰ メディカ出版 古橋洋子他著 患者さんの情報収集ガイドブック メヂカルフレンド社 高木永子監修 看護過程に沿った対症看護 学研 看護診断ハンドブック 医学書院
--

IV. 成績評価の方法

課題、提出物 等

V. 実習との関連

成績評価要綱第13条により、この科目を履修しなければ基礎看護学実習Ⅱを履修することができない。

授業科目名 地域・在宅看護総論 I (地域のくらしと健康を守る活動)	第一看護学科 1年次 後期 1単位 (15時間)
---------------------------------------	--------------------------------

I. 授業のねらい・目標

ねらい

地域で生活する人々とその家族を理解し、地域における様々な場で、地域での健康と暮らしを支えるための看護を提供するための基礎的知識を学ぶ。

目 標

- 1) 地域の特徴を知る
- 2) 地域で暮らしている人を知る
- 3) 家族の機能と変遷について知る
- 4) 地域で暮らしている人の健康状態について知る
- 5) 地域で暮らしている人の健康を守る活動を知る

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	地域の特性	講義 グループ ワーク	
2	地域の特性と暮らし		
3	暮らしと健康		
4	家族の定義、変遷		
5	地域で暮らしている人の健康を守る活動 (一次予防)		
6	地域で暮らしている人の健康を守る活動 (一次予防)		
7	地域で暮らしている人の健康について：まとめ		
8	地域で暮らしている人の健康について：まとめ (45分)		

III. 使用テキスト・参考文献

ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア メディカ出版

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物 等

授業科目名 地域・在宅看護総論Ⅱ (療養する人のくらしと看護活動)	第一看護学科 1年次 後期 1単位(15時間)
--------------------------------------	-------------------------------

I. 授業のねらい・目標

<p>ねらい</p> <p>病気や障害を持つ療養者の誰もが住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、社会のしくみを理解し、地域包括ケアシステムにおける看護師の役割を理解する。</p> <p>目 標</p> <p>1) 地域で療養する人の暮らしを知る</p> <p>2) 地域で療養する人の健康を守る活動を知る</p> <p>3) 地域でのケアシステムと保健・医療・福祉の連携について知る</p> <p>4) 療養する場所の変更への支援を知る</p>
--

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	地域で療養する人の理解	講義 グループ ワーク	
2	地域で療養する人の健康を守る活動 (小児・障害者・難病・高齢者)		
3	地域で療養する人の健康を守る活動 (小児・障害者・難病・高齢者)		
4	地域で療養する人の健康を守る活動 (医療機器を使用している人)		
5	療養する場所の変更への支援1 (在宅から施設)		
6	療養する場所の変更への支援2 (施設から在宅)		
7	継続看護 (外来看護)		
8	地域で療養する人の健康を守る活動：まとめ (45分)		

III. 使用テキスト・参考文献

ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア メディカ出版
--

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物 等

授業科目名 成人看護総論	第一看護学科 1年次 前期 1単位(30時間)
--------------	-------------------------------

I. 授業のねらい・目標

<p>ねらい</p> <p>成人期にある対象の特徴と現代社会において成人がおかれている状況を知り、健康の維持や健康問題に対する支援について理解する。</p> <p>目 標</p> <p>1) 発達段階と対象をとりまく環境を理解できる。</p> <p>2) 健康と保持増進のための看護について理解できる。</p> <p>3) 対象を看護するときの基本的なアプローチについて理解できる。</p> <p>4) 健康レベルに応じた看護について理解できる。</p>

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	成人とは、成人期の特徴	講義・演習	
2	成人とは、成人期の特徴		
3	成人とは、成人期の特徴		
4	成人をとりまく今日の状況		
5	成人をとりまく今日の状況		
6	健康の保持・増進や疾病の予防に向けた看護 ／成人保健の動向		
7	成人期にある人の教育的支援		
8	成人期にある人の教育的支援		
9	成人期にある人の教育的支援		
10	成人の特性や能力に応じたアプローチ 急性期の対象者の看護		
11	成人の特性や能力に応じたアプローチ 回復期の対象者の看護		
12	慢性期の対象者の看護		
13	慢性期の対象者の看護		
14	終末期の対象者の看護		
15	エンド・オブ・ライフ・ケア<end-of-life care>		

III. 使用テキスト・参考文献

<p>林直子他編 成人看護学 成人看護学概論 社会に生き世代をつなぐ成人の健康を支える 南江堂</p> <p>国民衛生の動向 一般財団法人厚生労働統計協会</p>

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物 等

授業科目名 老年看護総論

第一看護学科

1年次 後期

1単位(30時間)

I. 授業のねらい・目標

ねらい

老年期にある対象の老化理論や発達課題をふまえた特徴を理解し、超高齢社会における社会制度や倫理的課題について学び、老年看護の基本的な考え方を理解する。

目標

- 1) 老年期とはどのような時期か、高齢者とはどのような時期にある人々かが理解できる。
- 2) 老年期の対象をとりまく保険・医療・福祉における法制度や看護の役割、多職種との連携が理解できる。
- 3) 老年期にある人の死生観について考えることができる。

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	老年期の理解：ライフサイクルからの理解	講義	グループワーク
2	老年期の理解：生活の視点からの理解		
3	高齢者疑似体験	演習	
4	老年期を生きる人々の特徴：老年期の発達と成熟	講義	
5	老年期を生きる人々の特徴：高齢者の多様性		
6	加齢に伴う変化：加齢に伴う変化の特徴		
7	加齢に伴う変化：高齢者にとっての健康		
8	高齢社会における社会保障の動き：老人医療対策		
9	高齢社会における社会保障の動き：保健医療福祉のサービスと関連施設		
10	老年看護の基本的考え方と課題：高齢者とQOL		
11	老年看護の基本的考え方と課題：倫理的課題		
12	災害における高齢者の脆弱性		
13	高齢者を取り巻く社会：高齢者と家族		
14	高齢者を取り巻く社会：高齢者と社会システム		
15	老年期の死生観		

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護病態・疾患論 医学書院

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物 等

